

ライティング徒然草

エグゼクティブ・アドバイザー 林 健一

第 20 回 不適切な猫!?

新聞を読んでいたら、面白いコラムに出会った。まずはこのコラムの出だしを紹介したい。出典は2024年2月21日の朝日新聞朝刊(第13版)に掲載された「牟田都子の落ち穂拾い」で、原文をお読みにになりたい方は朝日新聞のデジタル版(有料)をご参照いただきたい。

「不適切な猫への餌やりを禁止します」という看板を見かけた。設置した人物はもちろん「不適切な餌やり」について訴えたかったのであって、「不適切な猫」とそうでない猫がいる、などと言いたかったわけではないと思う。

著者の牟田都子(むたさとこ)氏はフリーランスの校正者で、この出だしはいかにも校正者らしい視点で書かれている。ここには、わかりやすい文を書くための留意点が含まれており、以降では何が問題で、どうすればよいのかを掘り下げていきたい。

まず、著者はなぜ「不適切な猫」などと言ったのであろうか。実は、看板に書かれた文の冒頭は以下のような構造になっていて、これが誤解を生む原因になっているのである。

不適切な + 猫への + 餌やり

修飾語 1 修飾語 2 被修飾語

ご覧いただければわかるように、この部分は「不適切な」と「猫への」という 2 つの修飾語が「餌やり」という被修飾語(名詞)の前に直列形式で並んでいる。そして、2 番目の修飾語には「猫」という名詞が含まれている。このため、1 番目の修飾語「不適切な」が「猫」と「餌やり」のどちらにかかるのかが曖昧になり、「不適切な猫」と解釈することが可能なのである。

この問題を解決するためには、「猫への不適切な餌やり」と書き直せばよい。こうすれば、「不適切な」という修飾語の後に存在する名詞は「餌やり」だけになり、2 通りに解釈できる余地がなくなる。このように、被修飾語の前に複数の修飾語を並べる場合には、並べる順序に注意する必要がある。順序が適切でないと、執筆者の意図と異なる解釈が生じることがある。

では、修飾語の並べ方に気をつければ、いつでも問題が解決するのであろうか。これからは、我々が医学論文や申請資料で書きがちな文を題材にして話を進めることにする。まずは、以下の文を読んでいただきたい。

例文 1

成人 T 細胞白血病リンパ腫は、ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型によって引き起こされる高度の核異型を伴うリンパ球を特徴とする末梢性の T 細胞腫瘍である。

この例文では、「ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型によって引き起こされる」「高度の核異型を伴うリンパ球を特徴とする」「末梢性の」という 3 つの修飾語が「T 細胞腫瘍」の前に並んでいる。この結果、1 番目の修飾語が「高度の核異型」と「T 細胞腫瘍」のどちらにかかるのかが曖昧になり、意味を正確に理解することが難しくなっている。しかも、最初の 2 つの修飾語が長い。そのため、修飾語の並べ替えでは問題が解決しそうもない。ではどうするか。私なりの改訂案を以下に示す。

改訂案

成人 T 細胞白血病リンパ腫は、ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型によって引き起こされる末梢性の T 細胞腫瘍で、高度の核異型を伴うリンパ球を特徴とする。

改訂案では、修飾語の 1 つを「T 細胞腫瘍」の後ろに回した。こうすれば、「成人 T 細胞白血病リンパ腫は T 細胞腫瘍（である）」という文の基本骨格を把握しやすくなるだけでなく、複数の修飾語が並ぶことで生じる問題も回避できる。これは、文を書く際の基本的な留意点である。参考までに、以下の英文をお読みいただきたい。

参考文献：

Adult T-cell leukemia/lymphoma is a peripheral T-cell neoplasm associated with human T-cell lymphotropic virus type 1, which is characterized by the proliferation of highly pleomorphic lymphocytes.

参考文献は成人 T 細胞白血病リンパ腫を扱った論文で目にするもので、例文 1 と同様の内容が英語で書かれている。注目していただきたいのは語順の違いで、英語の参考文献では、関係代名詞（非制限用法）を用いて修飾語の 1 つを後ろに回している。我々は日本語で文を書く

際、修飾語を被修飾語の前に置きがちになるが、「修飾語はすべて被修飾語の前に置かなければならない」などというルールはどこにも存在しない。複数の修飾語が連なる場合、なかでも長い修飾語が連なる場合には、この慣習から脱却することが必要で、修飾語を後ろに回すという技術を必要に応じて適用していただきたい。

長い修飾語を用いた例文をもう1つ示す。

例文 2

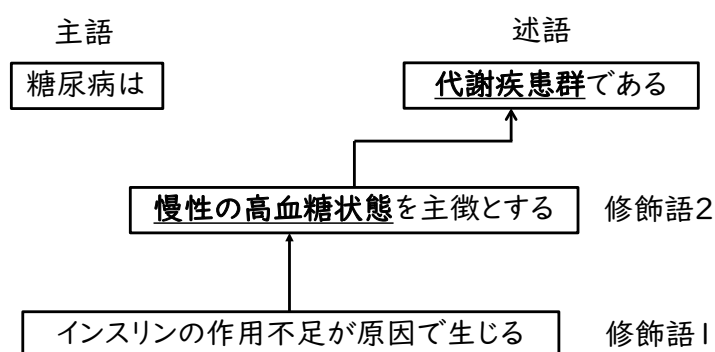
糖尿病は、インスリンの作用不足が原因で生じる慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群である。

この例文に対して修飾語を後ろに回すという技術を適用すると、以下のような改訂案となる。

改訂案 1

糖尿病は慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群で、インスリンの作用不足が原因で生じる。

改訂案 1 はわかりやすいが、厳密にいうと、例文 2 を正確に書き直したものではない。なぜなら、「インスリンの作用不足が原因で生じる」という修飾語は「慢性の高血糖状態」にかかるからである。すなわち、例文 2 の修飾・被修飾の関係は下図のような構造になっているのである。



こうした場合には、複雑な修飾・被修飾関係を解きほぐす必要がある。そのために有効な手法は伝えたい情報を分解することで、この例では糖尿病が発症する機序を考えるとよい。まずは情報を分解して順番に並べてみよう。すると以下のようなになる。

改訂案 2

インスリンの作用が不足すると、高血糖となる。高血糖状態が慢性化すると、代謝障害が生じる。そうした障害を主徴とする代謝疾患群が糖尿病である。

これはわかりやすく、正確でもあるが、主題となる「糖尿病」がなかなか出てこないという問題を有している。このため、たとえば段落の冒頭に記載する文のように、主題を早く明らかにしたい場合には、以下の改訂案のほうがよいかもしれない。

改訂案 3

糖尿病は慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群で、高血糖状態の原因となるのはインスリンの作用不足である。

これは2つの単文をつなげた重文で、結論として言いたいことを前半に記載した後、補足説明を後半に示したものである。例文 2 では修飾・被修飾の関係が入れ子構造になっていたため、わかりにくかったが、このようにすれば、複雑な関係をわかりやすく表現することができる。

まとめ

今回は、長い修飾語を含む文をわかりやすく書き直すための留意点を整理した。以下に要点を示すので、何らかの参考にしていただければ幸いである。

- ・複数の修飾語を並べる場合には、並べる順序を吟味し、誤解が生じないようにする。
- ・すべての修飾語を被修飾語の前に並べる必要はなく、ときには被修飾語の後ろに回してもよい。
- ・修飾・被修飾の関係が複雑な場合には、関係を解きほぐすことが必要である。そのために有効なのは、伝えたい情報を分解して整理することである。